

東日本大震災を踏まえ、調査検討専門委員会で意見をいただきながら県が実施してきた「津波調査」「液状化調査」の成果である「津波避難のための津波浸水予測図」・「液状化しやすさマップ」の概要は次のとおりです。

今後は、市町村とも連携を図り、地震防災対策を進めていきます。

1 調査の目的

「津波警報を聞いた場合、何処まで避難したらよいのか」、「どの程度の震度で自宅周辺が液状化しやすくなるのか」など、具体的な避難行動や液状化対策につながる住民目線の津波浸水予測図や液状化しやすさマップを作成する。

2 津波調査について

(1) 概要

- 元禄地震については、新たな研究成果を受け津波浸水予測図を作成
- 気象庁の津波予報区ごとに津波警報分類に応じた津波浸水予測図*を作成
- 東京湾内湾については、湾内の地震により大きな津波の発生は考えられないことから、東京湾口で津波高10mを想定して津波浸水予測図を作成

(2) 調査結果

- 過去の地震や新たな調査結果を基に沿岸の津波高を比較し、九十九里外房・内房の津波高は最大10m、東京湾内湾については、最大で3mとする。
- 元禄地震新モデルでは、津波高は館山市、南房総市の一部で10mを超えるところがあるが、土地が大きく隆起するため、浸水域は10mの津波のケースより狭い。
- 湾口10mの津波の浸水予測では、海岸保全施設が機能しても、木更津市では浸水が想定される。

3 液状化調査について

(1) 概要

- 収集及び新たに調査したボーリングデータから、全県の表層地盤モデルを作り、これを基に震度毎の液状化のしやすさ**を表した液状化しやすさマップ*を作成

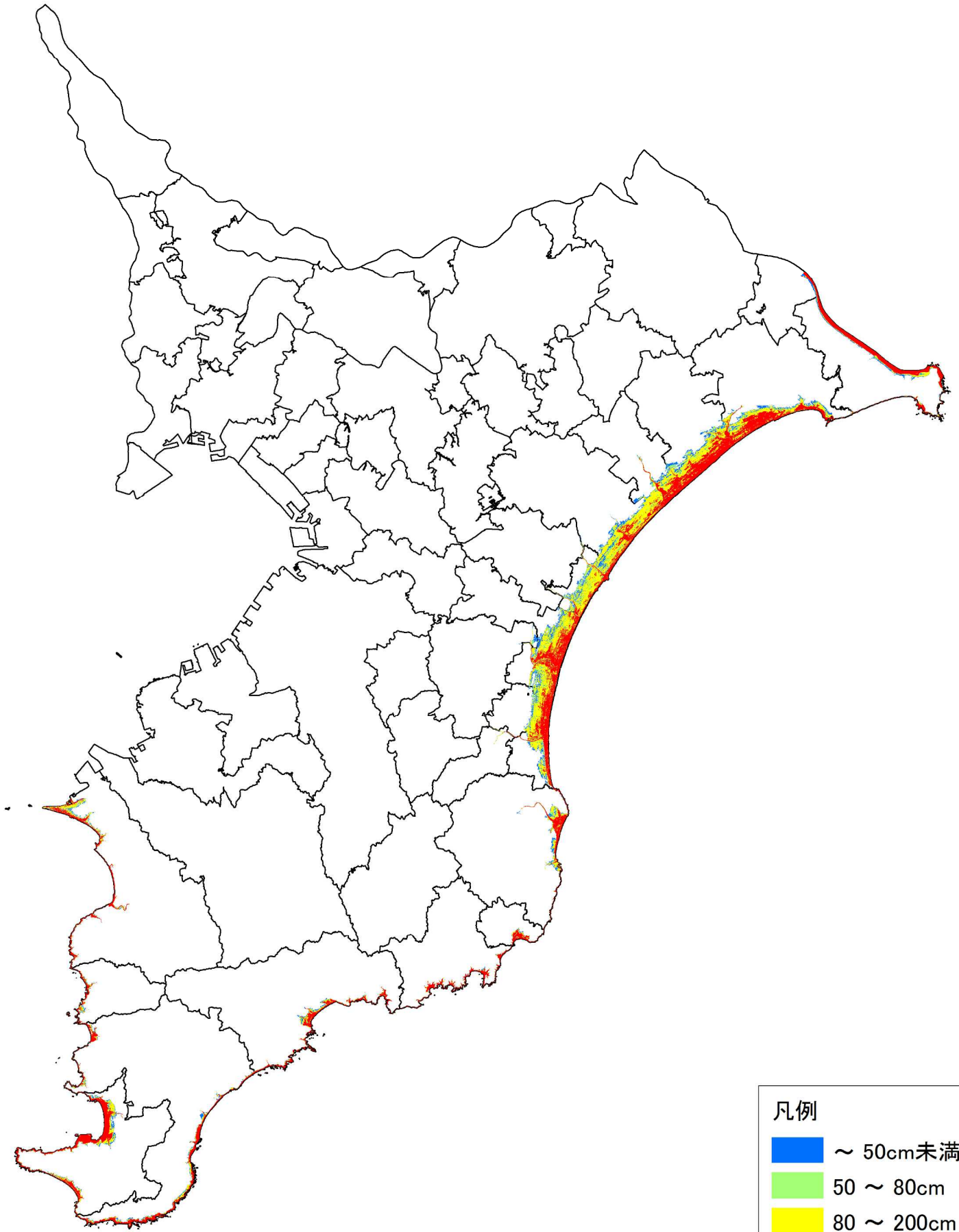
(2) 調査結果

- 震度5弱では、液状化しやすい地域はみられないが、震度5強になると東京湾岸の埋立地や利根川右岸の地域に液状化しやすい地域が出てくる。
- 震度6弱以上になると東京湾沿岸の埋め立て地域や利根川右岸に液状化しやすい地域が広がる。

*この2つの図面は、全国初の試みである。

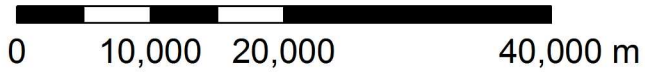
**「液状化しやすさ」は、液状化対策を実施していないものとして想定している。

津波高10m浸水予測図(千葉県九十九里・外房、千葉県内房)
・防潮施設:あり ・防潮水門:閉鎖



凡例

Blue	~ 50cm未満
Green	50 ~ 80cm
Yellow	80 ~ 200cm
Red	200cm ~

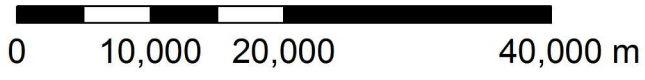


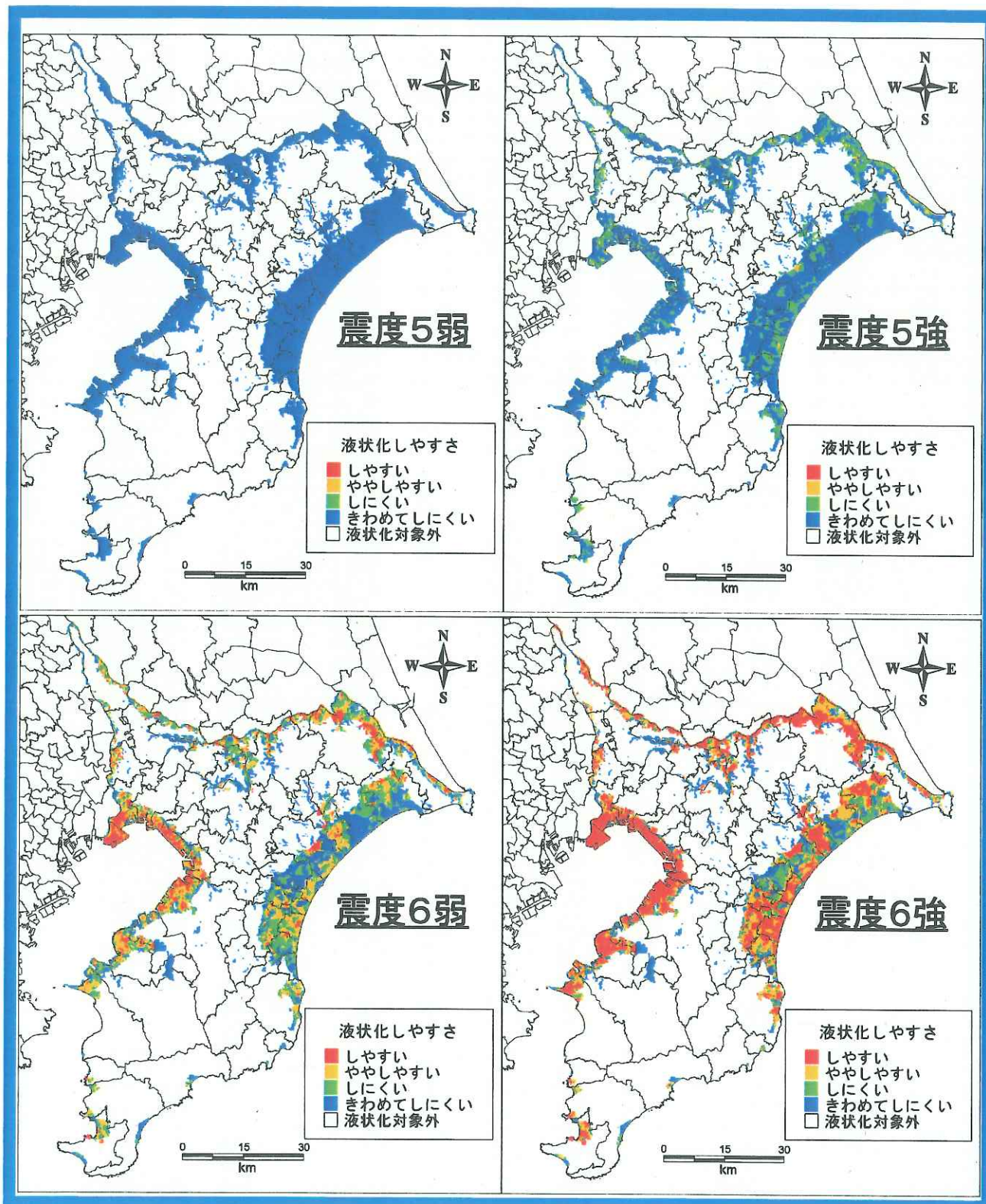
湾口10m津波浸水予測図(東京湾内湾)
・防潮施設:あり ・防潮水門:閉鎖



凡例

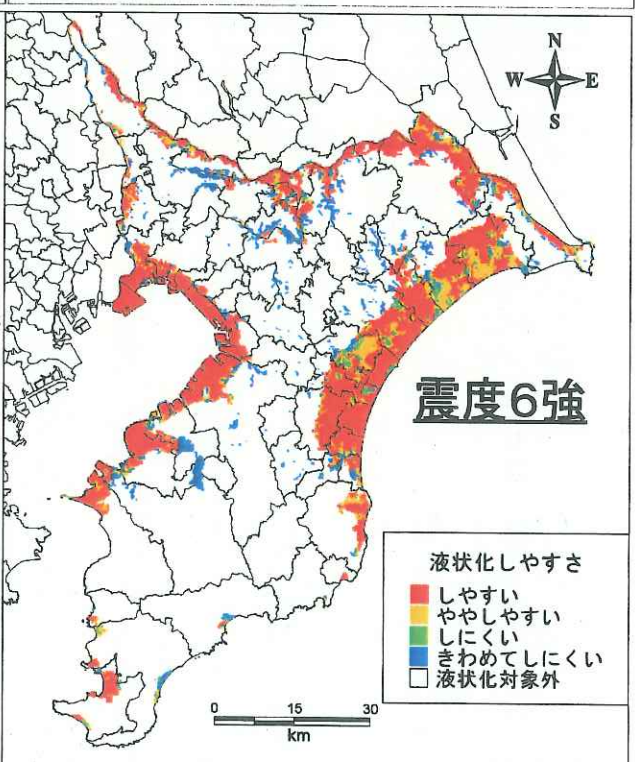
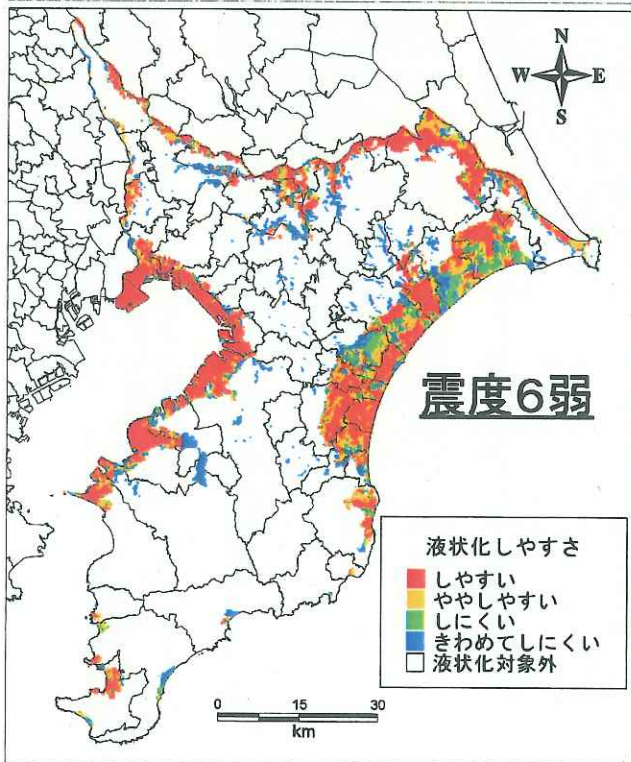
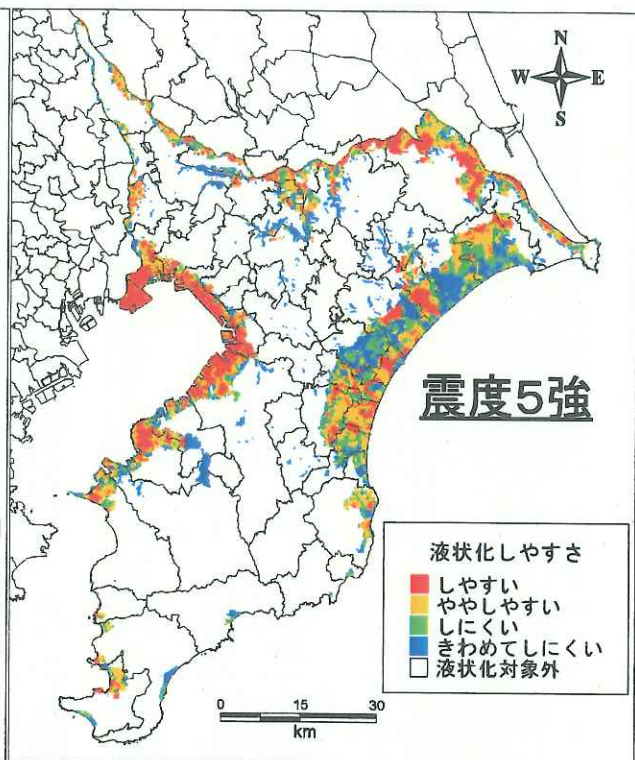
- ~ 50cm未満
- 50 ~ 80cm
- 80 ~ 200cm
- 200cm ~





液状化しやすさマップ（震度 5 弱・5 強・6 弱・6 強・直下地震）

液状化対策は考慮していない。



液状化しやすさマップ（震度5弱・5強・6弱・6強・巨大地震）

液状化対策は考慮していない。